



ロズバーク
日 本 人
知 事 所
一月十三日
水 曜 日
第 一 〇 〇 号

灣頭造船に絡む争議

労働相大統領令を無視し
大審院が仲裁に乗り出す

國際通信特報では加州系湾頭各造船所に対しC-O系二十種工員代表が土日両日の就働者に対してオバタイム支拂を要求し過去半月経過しても一向交渉拂はず且交渉中は怠業又は罷業し始めたので大統領終りに大棍棒を揮つて戦時目的省を要求した。然るに十日になつて労働大臣パーキンス女史は右大統領の命令的復業を促し通せんことを無視して尚交渉の余地あるが如く態度を保持し政府の意向が明かに二分された。記者達は騒がしく出た。桑港下野一ホテル密室にはパーキンス女史を取り圍んで工員代表者等が連日意見交換し居れるも其内容を公表せず。一部の労働者は大統領命令に準じて交渉の交渉と諦め他の労働者は労働相に依つて自己の目的貫徹を期すといふ層の紛糾状態を續けてゐる。C-O情報

南太平洋に中戦果

華府十日UP発電はソモロ戦果を報じてゐるが日本機四台に對して米國機一機のスコアにて空戦戦は米國側の大勝に歸し同戦区に於ける合計日本機の墜落数は六十八台に達したと云ふ主にムンクワカナル沖聖イザベラ及ニュージョージア沖の戦果であると言言した。即ち大要米國機百七十九台を失つたものがある。

日本軍南ビルマに集中

倫敦十日APはビルマ西南マニラ川の進駐せる印度軍がアキマ港攻略を目的とせるに對し、マニラ方面より日本軍續々南進し頑強に抵抗し始めた。報じ重慶報道を附加して曰く日本軍は更に大軍を佛印に上陸完了したが右は明らかたに印度ベンガル湾沿岸より新嘉坡に至る海岸地帯警備の爲めであるといふ。因に米國印度軍はクレイトンビツル少將が司令の空軍を主としてゐる。

ゴザツク老兵蜂起す

高加索北部クバン河一圓のゴザツク老兵はロストフルバツト間の鉄道線を拒する赤露正規軍を救援して附近の獨逸兵を縦横に惚ましてゐる。

アフリカ大戦期後相へ

倫敦方面ではアフリカに於けるリビヤ領の英軍モジガモリ將軍が頗る優勢なる兵力を備へてゐるに及しロメル將軍はトリポリを死守するものとも受け取れぬ。七十中の九はリビアに大激戦を始め第一英軍が西部より呼應狭撃となるであらう。然し今尚ほ雨期であるから茲通間は大戰とはなるまいと豫想する。

北阿佛領内の政争

アルビア方面の特報によれば故カール王暗殺の原因は純然たる佛國內の政争に起因せるもの如く近く新しく容疑者逮捕する運ひとなるであらうと云ひ直接行動のボニア、テラ、シヤツペーは射殺されたが彼は大學生にして父は新聞記者であり彼の殺意を決した。皆後には重大なる政治的問題が介在してゐると。

ニューギニア戦況

最近上陸せし日本兵は主としてラエサラマツの面であるがニ岬とブチチアを死守せる堀井部隊は活潑化した米陸軍は逐日陸兵を増加してゐるが十二日は密林

地帯よりクマシ川に於いて日本軍の側面攻撃を始め他の戦区は空襲の災張りや力戦してゐるとAPは報じてゐる。

ワート會社社務労働争議

市俄古十日發(國際通信)モガモリワート會社は声明書を發してデトロイト、デント、アー及び紐育州、イマ、イカ、三市に於ける六商店とシーアイ、オー、エ、オレとの争議について行動するや、戦時労働部へ請求手續を了した會社は工員代表のクレス、シヨツフを要求を拒否した。因に市俄古の同社商店はクレス、シヨツフ主義に反對するも大統領の命令により、命令員維持と稱するクレス、シヨツフの形式を承認することになつたと聲明書に言へり。

宮城縣人新年宴會

明十日(木)午後六時半第十中隊社交室に於て宮城縣人の新年宴會を開く。

世界交戦國豫算

華府十日發AP(米國明年豫算は一十億弗であるが他國の豫算左の如し)

| | |
|-----|------------|
| 獨逸 | 三百四十億弗 |
| 英國 | 二百十三億三千萬弗 |
| 露國 | 百五十億弗 |
| 伊國 | 八十六億七千萬弗 |
| 日本 | 七十億弗 |
| 加奈院 | 三十五億四千五百萬弗 |
| 支那 | 不明 |

